

「学力向上ポートフォリオ(小学校版)」

学力向上目標

全ての児童に対して

- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。
 - ・当該学年における国語・社会・算数・理科のテストにおける知識・技能の項目を80%以上にする。
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の国語・算数の平均正答率を、令和元年度の値より5pt向上させた値にする。
- 課題解決のための見方や考え方を相手に伝えるための具体的な表現方法を身に付けさせる。
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の国語・算数における昨年度の値を基準として、「思考力、判断力、表現力等」の値を5pt向上させた値にする。

具体的な手立て

- ① 週に1回、自校作成のワークシートを活用した朝学習を実施する。
- ② 児童主体の「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を行う。
- ③ 教職員間での授業公開を中心に、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を実践するための「仮説・実践・検証」をサイクルにした研究を推進する。
- ④ 児童一人ひとりの思考の可視化・共有化のために、タブレット端末等のICT機器を授業で積極的に活用する。
- ⑤ 5・6年生で教科担任制を実施し、教員の専門性を生かした授業を展開する。
- ⑥ 学年ごとに系統立てた「家庭学習の手引き」を作成する。

結果

今年度の自校テストの正答率は、国語が85%、社会が89%、算数が86%、理科が85%と、目標の80%を大きく上回ることができた。

今年度と令和元年度の全国学力・学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」、「思考・判断・表現等」の平均正答率を比較すると次のような結果になった

- 「知識・技能」では国語は1.0pt向上して70%、算数は4pt向上して70%となった。
- 「思考・判断・表現等」では国語は1.7pt向上して67.6%、算数は7pt向上して66.4%となった

今年度の振り返り・次年度に向けて

朝学習の実施や「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を実践するための学校課題研修、ICT機器の活用などの取組が、学力状況調査の結果の向上につながったものと考えられる。教科担任を実施するにあたって、家庭学習の手引きを生かしたり学年独自の課題計画表を作成させたりするなどし、自力で学習を進めていく力を育むことができた。

ICT機器の活用を積極的に行い、個別最適な学びを少しずつ実践できるようになってきたが、集団で意見や考えを交流したり、学び合って深めていったりするような、新たな時代の授業展開に役立つ活用方法を検討していく必要がある。